

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。
1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
 2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献するという志を持つ生徒を育成する。
 3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
 - (1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
 - ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用した授業力の向上に取り組み。
 - イ パソコン、プロジェクター、タブレット型PC、書画カメラ等のICTを活用した授業づくりを推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。
 ※ ICTを活用した授業(平成26年度約1000授業時間/年)を、平成29年度には年間2500授業時間以上にする。
 ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成26年度75%)を上昇させ、平成29年度には85%以上にする。
 ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成26年度62%)を、平成29年度には74%以上にする。
 ※ 中途退学者を減少させ、平成28年度末には在籍の1%以下にし、以降それを継続する。
 - (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
 - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
 - イ 学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を計画的に実施する。
 ※ 原級留置生徒を減少させる。
- 2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実
 - (1) すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
 - ア 基本的生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化する。
 - イ 制服を正しく着用する生徒を育てる。
 - ウ 授業規律の確立を図る。
 - エ 総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、規範意識の育成、人権尊重の教育、情報リテラシーの育成、国際理解教育を推進する。
 ※ 欠席・遅刻について前年度比8%の減少を図る。
 - (2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる。
 - ア リーダー研修を推進し、体育祭・文化祭等の学校行事の充実を図る。
 - イ 部活動の活性化を図る。
 - ウ 長期欠席者等への相談体制の充実を図る。
 - エ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
 ※ 部活動加入率(平成26年度43%)を増加させ、平成29年度末には50%以上をめざす。
 - (3) 保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ。
 - ア 地域の行事等に協力するとともに、あいさつ運動、清掃活動を活性化する。
 - イ 学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。
- 3 「やる気」を起こさせるキャリア教育のさらなる充実
 - (1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。
 - ア 進路指導部、学年が協力して、総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。
 - イ キャリアカウンセリング、就職学習会、模擬面接、応募前職場見学等の指導を個々の適性に応じて実施する。
 - ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。
 ※ 学校紹介就職内定率(平成26年度96.2%)を上昇させ、平成29年度末には100%をめざす。
- 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上
 - (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。
 - ア 中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
 - イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者等との信頼関係を高める。
 - (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「わかる授業」「参加する授業」の実現に向け、ICTを活用した授業づくりなど、生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫改善に努めたが、保護者の授業満足度は少し上昇(43.4%→45.2%)したものの、生徒の授業満足度は少し下がった(62.1%→59.4%)。ただ、生徒の授業アンケートにおける各授業への満足度の平均値は75.4%であり、昨年度(75.0%)を若干上回った。生徒の授業満足度の上昇に向けて、組織的・継続的な授業改善の取組みの推進、教員間の授業参観の充実、授業力向上に向けての校内研修の活発な実施など、さらなる授業力の向上をめざす取組みの充実が必要である。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・学校全体で、生徒を積極的に褒め自信を持たせる教育、生徒が主体的に活動できるための支援、教育相談体制の整備、遅刻・服装指導の強化を推進した結果、「学校へ行くのが楽しい」(65.2%→72.6%)「自分の学級は楽しい」(70.3%→75.1%)と感じる生徒の割合が上昇した。また、規範意識(65%)、人権尊重(59%)、教育相談満足度(63%)、学校行事満足度(75%)についてはいずれも昨年度とほぼ同じ結果となった。「門真西高生であることに誇りをもっている」とした生徒の割合が50.8%にとどまっており、本校の一人ひとりの生徒を大切に教育、面倒見のいい丁寧な教育を推進し、各分野におけるさらなる取組みの充実を図る必要</p>	<p>【第1回：7月10日開催】</p> <p><平成27年度学校経営計画について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在までの「遅刻0の日」運動を継承し、是非、実現してほしい。 ・警察との連携を密にしながら、交通安全に努めてほしい。特に、雨降りのレインコート着用を奨励を。 ・東大阪の成功プランを元に、今年度から小・中学校が開発的生徒指導に変更。これは傾聴・説得・納得をしっかりと問題行動を減らす考え方で、門真市の小中学生が「変わる」ことを期待している。 ・さらに広報活動を進めながら、生徒のやる気をあげる。「直す・育てる教育」を大事にしてほしい。 <p>【第2回：11月6日開催】</p> <p><平成27年度学校経営計画進捗状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの授業時間数が現時点で1000時間を超えていて素晴らしいと思う。教科を超えて、まだ使っていない教科にアドバイスをあげるとうまくいくと思う。アクティブラーニングの考え方を踏まえ、少しでもペア、グループで話し合う等、授業の構成について考えてほしい。そうすると、生徒の反応も変わるのではないかと考えている。 ・生活習慣の改善が必要な生徒もどこかで気づいて変わると思う。色々な気づきを引き続き生徒に与えて欲しい。 ・PTA行事には保護者に多く参加して欲しい。呼びかけは今後も考えていきたい。

<p>がある。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>・系統的キャリア教育、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導のさらなる充実の結果、キャリア教育満足度は上昇した(74.9%→78.4%)。今後も、「多様な進路希望の実現」を本校の特色としたい。</p> <p>【その他】</p> <p>全体の平均値からみて、今年度の肯定的評価は、高い順に保護者(68.6) 教員(67.2)生徒(61.7)となり、昨年度と比べ保護者・教員が逆転した。また、肯定的評価ポイントの増減は、増ポイントの多い順に保護者(+1.0) 生徒(-1.2)教員(-4.2)となっており、今年度の取り組み状況を教員は昨年度ほど「良し」と評価していない傾向にあるが、保護者は一定評価していると考えられる。高い評価を受けている「親身になった、きめ細やかな生徒理解・生徒指導・進路指導」をさらに進めるとともに、保護者との連携・情報の発信に努めていく必要がある。また、参加しやすいPTA活動にも取り組む必要がある。</p> <p>次に、生徒の評価は友人関係、行事関係、進路指導に高い評価があげられるが、対教師関係、生徒指導関係の項目で否定的評価が多い傾向にある。対話の時間を大切に、今以上に生徒一人ひとりに向き合う教育に努める必要がある。</p> <p>一方、教師の評価はもっとも増減が大きい。最も評価が高く増加ポイントの大きい項目が「問題行動に対する組織対応」(89.2 +9.7)である。危機意識が高く組織対応の重要性を認識していると考えられる。また、肯定評価は低いが大きくポイントを上げた項目に「校内人事や校務分担」(54.2 +10.5)「校内研修の充実」(51.4 +20.6)があり、今年度の取組みを継続しつつ、さらに推進し、次年度の取組みに活かしていくことが必要である。大きく否定傾向に移行した項目に「予算編成・執行」(-30.6)、「前年評価を生かした教育計画」(-22.6)、学習指導の工夫・改善(-22.3)がある。本校の学校経営計画は、年度末の各分掌、各学年、各教科の総括を基にして作成されており、「前年評価を生かした教育計画」の評価が大きく低下したのは意外な結果であった。次年度は更なる取組みの充実、改善を進めるとともに、教職員の学校改善への参画意識をさらに高める必要がある。</p>	<p>・セクシャルマイノリティについての講演はタイムリーであり歓迎する。</p> <p>【第3回：1月29日開催】</p> <p><平成27年度学校経営の評価への提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成に向けて様々な取り組みをしているのは評価できる。ICTを取り入れた授業を公開し、発信していけばいいかと思う。また、アクティブラーニングも少しずつ取り入れて対話を増やして欲しい。 ・リーダー研修が生徒と教員間の信頼関係と、学校行事の充実を担っていると思う。 ・広報が学校を活性化している。「門西だより」はすごく効果的で素晴らしい。中学校ではラミネート加工して掲示している。 ・部活動体験と授業体験を同じ日に行うのは、学校側の人員体制的に難しいので、来年度は9月に部活動体験、11月に授業体験に変更できないかを検討する。 ・PTA総会、実行委員会を含め、学校側と話しながらPTAのあり方について考えていきたい。 ・学校教育自己診断における保護者の回答に肯定的回答が80%を超えている項目がいくつもある。保護者と教員との信頼関係ができていると評価してよい。また、保護者の肯定感が高いのは、生徒の家庭内での発言が決め手ではないだろうか。 ・ピカピカ隊は広報活動の一環としても素晴らしい取り組みと思う。近隣の方にも好評いただき、近隣の会社など感謝の言葉が増えてきた。 <p><平成28年度学校経営計画への提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を「褒めながら育てる」門真西高の教育をどんどん発信しできるよう広報活動をさらに充実させていただきたい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業の質の向上に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる</p> <p>(2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員相互の授業見学を年間を通じて積極的に実施する。強化月間を設定し、授業の質の向上について意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用する。 ・初任者の研究授業等、教員研修を充実し、授業力向上の取組みの活性化を図る。 <p>イ・ICTを活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2)</p> <p>ア・各学年、教科で、習熟度別少人数展開授業の充実に取り組み。</p> <p>イ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部が計画的に実施する。各種検定試験に向けた講習を実施し、講習参加者を増加させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教員による授業見学月間を年間2回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度78%以上。 <p>イ・ICTを活用した授業年間1500時間以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度66%以上。 <p>アイ・中途退学者在籍比2.0%以下。</p> <p>(2)</p> <p>アイ・単位不認定数の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原級留置生徒の減少。 <p>イ・補習講習参加者の増加。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教員相互の授業見学強化月間を6・11月に各回各自2回ずつを目標に実施した。実施後、各教科会で意見交換を行い、課題の共有と改善策の検討を行った。次年度は教員相互の公開授業がより有効なものとなるように実施方法等のさらなる改善を図りたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の授業アンケートの結果をもとに全教員、全教科が「振り返りシート」を作成し、課題の解決に取り組むなど全校的に授業の自己点検及び改善に取り組んだ。2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度は75.4%と目標には届かなかったものの、昨年度(H26:75.0%)を少し上回った。(○) ・初任者一人当たり1回、公開研究授業を実施。6月に「アクティブ・ラーニング」についての授業力向上研修を、教育センターの指導主事を講師に招いて実施した。次年度は、授業力の向上に向けて、観点別評価についての理解を深めるなど、さらに研修の充実を図りたい。(○) <p>イ・情報科を除く教科でのICTを活用した授業は年間2068時間であり、目標を大きく上回っている。次年度はさらに活用時間を増やすとともに、より効果的な活用を図りたい。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度は目標の66%にはとどかず、59.1%にとどまった。(△) <p>アイ・中途退学者数は15名(在籍比1.97%)となり、昨年度の20名より減少し、目標を達成できた。次年度は、より丁寧な指導に取り組み、さらに減少を図りたい。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・1年国語で確認テスト・作文添削・プレゼンテーション指導を実施、1・2年数学・英語でも小テスト、暗唱音読テストを実施、統一教材の使用等、各学年、教科の統一した取組を行った。(○)</p> <p>イ・放課後補習・講習、考査前補習、夏期・冬期講習、入試対策講習、漢検・数検・英検・ワープロ検定前講習を実施し、確かな学力の育成、進路実現に成果を上げた。各種検定受験者(講習参加者)数も増加した。次年度は、少人数展開授業のさらなる拡充や補習の充実、放課後の自習室の確保などについて検討し、個に応じた学習指導のさらなる充実を努めたい。(追認補習参加率85.4%。漢字検定42名受験、準2級3名、3級1名合格。数学検定25名受験、2級1名、2級1次1名、準2級3名、3級6名合格。英語検定13名受験、3級3名合格。ワープロ検定69名受験、1級1名、準1級1名、2級3名、準2級16名、3級43名合格。1年生発展講習3名、基礎学力講習20数名。2年生成績不振者補習、希望者講習ともに約40名。)(○)</p> <p>アイ・年度末の単位不認定数(H26:410科目980単位→H27:269科目661単位)、原級留置生徒数(H26:28名→H27:16名)ともに大幅に減少した。(◎)</p>

<p>2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実</p>	<p>(1) すべての教育活動を通じて、規範意識、自らを律し他人を思いやる心を育てる</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる</p> <p>(3) 保護者や地域との連携を図り、社会に貢献するという志をはぐくむ</p>	<p>(1) ア・欠席、遅刻について、一斉登校指導の実施等、生徒指導部、各学年、担任が協力して、保護者と連携した指導を強化する。 イ・指導方針を統一し、制服を正しく着用する生徒を育てる。 ウ・指導方針の統一、教室環境の整備により、授業の集中力を高め、授業規律の確立を図る。 エ・総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、心のアンケートを行う等、いじめの防止、規範意識の育成、人権尊重の教育、情報リテラシーの育成、国際理解教育を推進する。</p> <p>(2) ア・生徒指導部、西高祭委員会、学年が協力して、リーダー研修を充実させる。 ・生徒自治の精神を養い、体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事を成功させて、自己肯定感を育てる。 イ・部活動の継続を支援するため、顧問を中心にきめ細かい指導を実践する。 ・門真西高カップバスケットボール大会、学校見学会部活動体験等、中学校との交流の機会を広げ、部活動の活性化を図る。 ウ・教育相談委員会、学年会、中退防止連絡会が情報を共有して、長期欠席者等への早期対応を行うと共に、SC、関係機関との連携を推進し、相談活動を充実させる。 エ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立し、「高校生活支援カード」「個別的教育支援計画」の適切な活用を図る。 オ・生徒の自己肯定感を高める取組みのさらなる充実を図る。</p> <p>(3) ア・門真市の行事への協力を行う。 ・学校全体で「おはようあいさつ運動」、校外の清掃活動「ピカピカ隊」を活性化させる。 イ・三者(生徒・保護者・教員)交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。 ・学校保健委員会を活性化させる。</p>	<p>(1) ア・欠席・遅刻の前年度比8%減少。 イ・自ら正しく制服を着用する生徒の増加。 ウ・指導方針を統一した授業規律の確立。 エ・心のアンケートの実施と実態把握及び適切な対応。</p> <p>(2) ア・リーダー研修参加者の満足度、肯定的意見90%以上。 ・学校行事満足度の上昇。 イ・部活動加入率45%以上。 ・交流機会の拡大等による部活動の活性化。 ウ・長期欠席者の減少。 エ・「高校生活支援カード」「個別的教育支援計画」の作成と適切な支援。 オ・新たな企画など取組みに広がりや深まりがあったか。</p> <p>(3) ア・参加する生徒層の広がり。 ・参加教職員数の増加。 イ・学校行事への保護者、地域の参加数の増加。 ・年間2回以上の委員会実施と保護者の参加。</p>	<p>(1) ア・全学年で個別指導、「遅刻0の日運動」の取組みを行った結果、年度末での欠席者数、遅刻者数は昨年度よりもそれぞれ14.0%、33.0%減少し、目標を大きく上回る成果を上げた。次年度は、指導の徹底と定着を図り、全校を挙げてさらなる欠席、遅刻の減少に取り組みきたい。(◎) イ・全校を挙げて制服の正しい着用指導を行い、粘り強く声かけを続けた結果、制服を着崩す生徒は大幅に減少し、特にスカート丈の短い生徒はいなくなった。次年度は、引き続き粘り強く指導を継続し、さらなる指導の定着を図っていききたい。(◎) ウ・トイレ等授業途中の退出者にも遅刻カードを取りに行かせたり、授業担当者と学級担任の連絡を密にしたりするなど、授業遅刻への統一した指導、授業開始時の挨拶の励行等を行い、授業への集中、授業規律の確立ができた。次年度は、引き続き粘り強く指導を継続し、さらなる指導の定着を図っていききたい。(◎) エ・「安全で安心な学校生活を過ごすために」アンケートを6月に実施、「心のアンケート」を12月に実施し、悩みを抱えている生徒の把握と個別対応を行った。総合的な学習の時間、LHRについては、例年の取組みをもとに人権学習、進路学習、国際理解教育を中心に講演会、体験学習等を織り交ぜて実施した。(○)</p> <p>(2) ア・リーダー研修は、当初予定の3回を超えて4回実施した(4・6・11・1月)。1月末実施のアンケートでは、参加者の90.5%が肯定的意見であった。(○) ・学校行事満足度は、76.4%で、昨年度とほぼ同じであった。一昨年度の71.5%と比較すれば、ここ2年で学校行事が楽しいと感じる生徒の率が75%以上に定着してきた。次年度は、生徒がより自主的に活動できる取組みを取り入れるなど学校行事の内容をさらに充実させて、生徒の満足度の向上を図りたい。(○) イ・4月に「部活動体験」を1年生全員に実施するとともに、9月に1・2年生対象に「見学期間」を追加で実施したが、部活動加入率は昨年度の43%から40%に減少した。1・2年生の加入率は34%と減少しており、次年度も粘り強く啓発に努めるとともに、部活動に加入するメリットを伝える機会を新たに設けたり、生徒の興味関心があるような部の新設を検討したりして、部活動加入率の向上を図りたい。(△) ・部活動の活動そのものはさらに活発になり、公式戦等でもよい結果を残せるようになった。本校が公式戦等の試合会場となる、学校説明会での部員による説明・案内を行う等、部活動の活性化が推進できた。門真西高カップをはじめとして、中学生約1100人、保護者約200人、引率教員約140人との交流を実施し、中学校との交流を深めた。次年度も、生徒のやる気をさらに喚起するため、取組みの充実を図りたい。(○) ウ・各学年、教育相談委員会、中退防止連絡会がSCと連携したきめ細かい指導を行った結果、長期欠席者数(40日以上)は15名となり、昨年度(18名)よりも若干減少し、目標を達成できた。次年度も、より丁寧な指導に取り組み、さらに減少を図りたい。(○) エ・「高校生活支援カード」を活用した面談を実施するとともに、昨年度から継続の要支援生徒3名に加え、今年度1年生の2名についても「個別的教育支援計画」を作成した。教科担当者会議やケース会議を開催し、近隣支援学校及び専門機関とも連携して、継続支援を行った。次年度は、より丁寧な指導に取り組み、さらに指導の充実を図りたい。(○)</p> <p>(3) ア・門真市文化祭に参加し、生徒会がインタビューやナレーション等を実施、茶道部がお茶席を運営した。また、今年度新たに門真市の防犯事業の防犯ワークショップに参加した。(◎) ・「おはようあいさつ運動」は年間5回、「ピカピカ隊」は年間9回実施した。参加生徒、参加教職員数も増加した。早朝の生徒ボランティアによる校外清掃、校内清掃・除草の取組みへの参加者も増えた。(○) イ・「門西だより」を毎月発行する等、生徒・保護者への情報発信に努めた結果、行事への保護者参加数は上昇した。(○) ・第1回を10月に開催した。「食生活」をテーマに生徒保健委員会の発表、守口保健所の管理栄養士さんの講話、協議を実施。保護者参加。第2回を3月に開催し、今年度の総括を行うとともに、次年度の取組みについても検討した。保護者参加。次年度は生徒保健委員にとどまらず、生徒全員による保健衛生活動を推進し、学校保健委員会での発表をめざしたい。(○)</p>
-----------------------------	---	---	--	---

府立門真西高等学校

<p>3 キャリア教育のさらなる充実 「やる気」を起こさせる</p>	<p>(1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる</p>	<p>(1) ア・進路指導部、学年が協力して、1年生でニート防止教育講演会、職業観育成ガイダンス、2年生で進路体験学習等、3年生で進路別説明会等を生徒の実態に応じて実施し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。 イ・就職学習会を3年生で実施する。 ・模擬面接を様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で実施し、実践力を養う。 ・応募前職場見学を充実させ、受験事業所と生徒の希望とのミスマッチを防ぐ。 ウ・進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・キャリア教育満足度の上昇。 ・進路未決定者18%以下。(H26 24.4%) ・フリーター希望者5%以下。 イ・就職学習会の1学期・週1回の実施。 ・模擬面接の一人5回以上の実施。 ・応募前職場見学の一人2か所以上の実施。 ・学校紹介就職希望者の就職内定率98%以上。 ウ・進路だよりの年間5回以上の発行</p>	<p>(1) ア・1年生は12月ニート防止教育講演会、1月職業観育成ガイダンス、2年生は7月に進路体験学習、3学期に進学・就職講座(全4回)、3年生は4・7月に進路別説明会を実施し、キャリア教育満足度はH26・74.9%→H27・78.4%に上昇した。(◎) ・進路未決定者は年度末18.4%で昨年度より大きく減少し、目標をほぼ達成できた。(○) ・アルバイト・フリーター希望者9.2%であり、目標を達成はできなかった。(△) イ・就職学習会を1学期は週1回のペースで計10回実施し、夏休み、9月にも継続して計10回実施した。(○) ・模擬面接は様々な形態(集団・個人、教員・ハローワーク・外部講師等)で、一人8回以上(H26・6回)実施し、目標の5回を大きく上回った。生徒アンケートでは肯定的意見が多かった。(◎) ・応募前職場見学は、就職希望者全員に一人2か所以上実施した。(延べ107名が67事業所を見学)(○) ・学校紹介就職希望者内定率は97.8%であり、目標をほぼ達成できた。(H26年度末・96.2%)(○) ウ・進路だよりは、年間6回発行し、「進路のしおり」を保護者懇談で全学年に配布する等情報発信に努めた。2年の生徒・保護者対象の進学学費説明会を12月に実施した(生徒13名、保護者11名参加)。次年度は、さらにキャリア教育を充実し、1年時より生徒の進路意識を高める取組みの一層の充実を図りたい。(○)</p>
<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる 学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。 (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・広報委員会を中心として、学校全体で、中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 ・学校紹介リーフレット、ポスター、プレゼンテーション資料等を作成する。 イ・学校教育活動全般について、適切な情報発信を行い、保護者等との信頼関係を高める。 (2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・職員研修を計画的に実施する。 ・府教育センターの研修等を活用し、伝達研修の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・広報活動を推進する体制の強化。 ・参加中学校関係者数、参加教職員数の増加。 イ・効果的で適切な情報発信。 (2) ・初任者等研修の年間8回以上の実施。 ・職員研修の計画的な実施。 ・伝達研修の適切な実施。</p>	<p>(1) ア・学校見学会・体験入学を6, 9, 11, 2月に実施した。体験講座の内容をより興味深いものにするなど、企画内容等を工夫したところ、昨年度より参加者が増えた(465名⇒514名)。校外実施の学校説明会は7か所(昨年度6か所)に参加した(説明した中学生220名、保護者140名:昨年度は中学生186名、保護者91名)。全教員が校外外ともに少なくとも一回参加する体制で実施し参加教職員数は増加した。(○) イ・学校紹介リーフレット、ポスター、部活動ガイドを更新するとともに、プレゼンテーション資料(学校説明会用DVD、パワーポイント等)の一部修正を行った。また、「門西だより」を月1回発行し、生徒・保護者だけでなく、近隣中学校へも送付した。次年度も、広報活動のさらなる充実を図りたい。(○) (2) ・初任者一人当たり1回、公開研究授業を行った。他校の先生に研究協議にも参加していただき、有意義な研修となった。初任者4名の時間調整が難しく、昨年度と同様の内容の研修を個別指導で実施した。次年度は、計画的、組織的に研修を実施したい。(△) ・授業力向上研修、人権研修等職員研修を計画的に実施した。次年度は、教員の指導力のさらなる向上に向けてさらに研修の充実を図りたい。(○) ・「障がい理由とする差別の解消の推進に関する法律」についての伝達研修を3月に実施した。年間を通して1回の実施となり、昨年度の5回より回数は減少した。(△)</p>